

調査報告概要表

作成日 平成 20年 3月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670102807
法人名	有限会社 メイザン・メディカル
事業所名	グループホーム いこいの泉
所在地 (電話番号)	鹿児島市泉町9番5号 (電話) 099-805-3590

評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成 20年 3月 5日

【情報提供票より】平成20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 8月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算	9.1

(2)建物概要

建物形態	単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	7階建ての	2階 ~ 3階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	実費相当額 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 84.5 歳	最低 78 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	(医)天陽会 中央病院 (医)天陽会 中央クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市中心部の商業地域にあるマンション内に位置するグループホームである。協力医療機関や関連施設が隣接しており、医療ニーズが発生しやすい利用者及びその家族の安心につながっている。これまで地域とのつきあいは、地域の行事に参加したり、散歩に出かけたりした際に話をしたりしてきているが、新たに近隣の住民がグループホームの中で行っている行事に参加したり、近くの保育園児との世代間交流の取り組みも始まっている。施設長および管理者はケアの技術だけでなく、利用者に対する尊厳や誇りを損なわないようなケアや言葉かけに特に留意している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの理念について、理念をもとにケアのモットーを作成し、パンフレットなどにもわかりやすく掲載している。運営推進会議については、利用者・家族・地域住民代表・職員が参加して定期的に開催し、サービスの向上に活かしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、日々のケアの振り返りの機会にしている。評価結果についても全員で内容を確認し、今後の方針について話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議には、利用者・家族・地域住民代表・法人代表者・職員が参加し、ホームの近況報告を行い、現在の取り組みについての意見交換の機会にしている。また、今後の地域住民との交流のきっかけ作りの場にもなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	普段から気がついたことや意見・希望を気軽に話してもらえるような雰囲気を大切にしている。実際に苦情が出た場合は改善策を全員で話し合い、以降の運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会へ加入したり、ホーム内での行事を近隣住民に声かけし、地元の人々との交流に努めている。民生委員への働きかけや地域向けの広報誌の発行も行っている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は事業所開設の際に職員で話し合ってつくりあげたものである。理念の中に「その人らしい生活」「地域との交流」を大切にすることを表している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をより分かりやすく具体的に理解するために、「4つのモットー」をつくりあげている。ミーティングなどの際に、理念に基づいたケアができていくかみんなで話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入したり、ホーム内で行う行事を近隣住民へ声かけし、地元の人々との交流に努めている。民生委員への働きかけや地域向けの広報誌の発行も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、日々のケアの振り返りの機会にしている。評価結果についても全員で内容を確認し、今後の方針について話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、利用者・家族・地域住民代表・法人代表者・職員が参加し、ホームの近況報告を行い、現在の取り組みについての意見交換の機会にしている。また、今後の地域住民との交流のきっかけ作りの場にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日程調整の都合もあり、頻繁に行き来する機会はないが、相談・報告を行い、必要に応じて連携できる関係を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員全員で作成する広報誌を定期的に発行し、ホーム全体の様子を知らせている。それぞれの利用者の様子についても、広報誌に各自コメントを記載している。金銭管理の状況については、ホーム来訪時に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から気がついたことや意見・希望を気軽に話してもらえるような雰囲気大切にしている。実際に苦情が出た場合は改善策を全員で話し合い、以降の運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等による職員の交代は極力ないように努めているが、やむを得ず交代する場合は、職員が交代する前から次の職員を同時に配置し、少しずつ利用者との関係作りができるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	すべての職員が外部研修に参加できるように支援している。事業所内研修も充実しており、必要な知識や技術を得ることができるようテーマにも配慮し、計画的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームで構成している連絡協議会に参加し、他のホームとのネットワーク作りをしている。他のホームの見学についても計画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学の時間帯を工夫し、利用希望者が他の利用者や職員となじみの関係になれるようにしている。職員と家族の関係作りも大切にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護してあげるという気持ちではなく、喜怒哀楽を共にする関係を築けるよう努めている。人生の先輩として職員が教えてもらう場面も多々ある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に希望や意向を聞き記録に残した上で、利用開始後に得た情報についても新たに記録し、全職員で共有している。常に利用者本位に検討できるように、情報の共有には特に気をつけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を把握し、各関係者と話し合いながら介護計画を作成している。利用者本位の計画作成にむけた取り組みの1つとして、希望の把握のためにケア日誌記録の様式を見直し、記録の仕方についても工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に計画の見直し・評価を行い、現状に即した計画を作成している。状態に変化があった場合は、プランの見直し・修正を適宜行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族状況・希望に応じて通院や買い物の付き添いを行っている。必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの経緯や本人・家族の希望によってかかりつけ医を決め、密に連携をとりながら受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望や医療機関との連携状況などを総合的に鑑み、重度化や終末期に対しての方針を決めている。また、できるだけ対応できるような体制作り、職員のストレスの緩和などに取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りや尊厳を損ねるようなことがないよう常にそれぞれの職員が心がけ、職員間でも気がついた時には注意しあう雰囲気を作っている。個人情報の取り扱いについても留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の自然な生活リズムをつくりつつ、一人ひとりの希望やこれまでの生活歴にそって支援を行っている。外出や食事の希望についてもできるだけ対応するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、買い物に行って食材を選んだりしながら、食事の準備から利用者もかかわりを持てるようにしている。食事は職員も同じものを取り、生活の一部として一緒に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯を決めたりせず、それぞれの希望や習慣に応じた支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	絵画・俳句作成・新聞購読など、それぞれの関心事や趣味に取り組むことができるよう支援している。また、得意なことや好きなことを生かした役割分担も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームに閉じこもることがないように散歩に出かけたり、地域の行事に参加するなど、外出の機会を設けている。外食を楽しむこともある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	チャイムをつけている時期もあったものの、現在は見守りや声かけで対応できている。必要に応じて一緒に散歩にいたり、行きたい場所に付き添ったりしながら、自由な生活を支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	様々な災害時に備えた訓練や対応方法の確認を定期的に行っている。地域の方にも、必要な場合は協力を得るようにお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の専門的な観点から献立のチェックを行い、バランスのよい食事を心がけている。食事や水分の摂取量も概ね把握し、必要に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的なあたたかい雰囲気を感じる居心地のよい共有空間である。利用者の手作りの季節に関する作品を飾ったりすることで、ほどよい生活感・季節感が生じている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものをそれぞれの居室に持ち込んでもらい、安心して居心地よく過ごせるようにしている。		